

一般社団法人長野県はり灸マッサージ師会
理事長 白井 武文

テーマ：椎間パルスとサーノスを組み合わせた神経痛や神経を原因 とした様々な症状に対する根本的治療法

様々な病名で呼ばれている痛み、しびれ等の多くは神経性由来のものが多く、その治療には原因である脊柱の変形・変位とその罹患神経の支配領域を同時に治療する事で再発のしにくい、根本的な治療を行うことができます。

1) 神経性による病変のメカニズム

神経は脊柱管を通り、椎骨の下部と椎間板の隙間から出て、各支配領域まで通っています。しかし、脊柱のS字カーブを支えているのは横突間靭帯くらいなので、非常にアンバランスなのです。

だから猫背などの生活習慣、事故による外傷（椎骨がずれた場合、治療しなければそのままです。子供の頃に負った外傷が大人になって症状として現れることは非常に多いです）等により簡単にずれてしまいます。

また老化による椎間板の枯渇により今まで大丈夫だったのに急に症状が現れることも多いです。（なので加齢にともない身長も5～6cm 当たり前に縮んでしまいます）脊柱管狭窄症といわれる病気のほとんどは、この椎間板の枯渇によるものです。

神経とは電気信号による伝達なので、圧力に弱く、少し圧迫されただけですぐに異常をきたしてしまいます。

ですので、椎間パルスによってその圧迫された神経を緩めて通りやすくし、サーノスを神経走行に沿って症状局所の痛み・しびれを緩和していくことで、患者に対ししっかりと効果を体感していただくことができます。

2) 椎間パルスの治療法

まず出ている症状と理学検査等を行い、原因部位の見当をつけ、予測される脊椎部位を触ると変形が診られる（飛び出したり、凹んでいたり、左右にずれていたり、潰れていたりします）ので、その異常部位の棘突起から3センチほど横に直刺していきます。（最長筋の膨隆部より内側、寸3くらいであれば気胸は間違いなくしませんので安心してください）

さらにその原因部位の前後左右に計8本刺入を行い、脊柱を挟まないようにして、縦に電極を結び、5 Hz の Vol は2くらい（患者に聞きながら電気の通っている感覚がくれば大丈夫です。強すぎないように注意）、通常そのまま30分ほど流します。

終了後、緩んでくるので、軽くマッサージや矯正をかけるだけですぐ正常値まで動くようになります。

3) サーノスの治療法

主に手足の神経症状（神経痛、しびれ、動かせない等の麻痺）に対して使用します。症状の出ている神経の走行に沿って電極を貼っていき、これも患者が感じるくらいの強さ（大体 Vol 2～3、Shot Level 40～50）に調節します。サーノスの時間をもってパルスも終わりにするとちょうど良いかと思えます。

サーノスの特徴は、浅部の筋肉・靭帯と深部の神経・血管の両方同時にアプローチできる点にあります。注意点としては脊柱を挟んで電極をつなげると、筋肉の収縮がつかれないので、効果が薄れてしまいます。患者には神経痛専門の機械だと説明していますが、臨床経験として、特に神経症状には効果が高いと感じております。



4) 頸椎の変形・変位からくる様々な症状

頸椎上部からくる疾患

偏頭痛、橈骨神経痛、眼精疾患（目の奥の痛み、ドライアイ、飛蚊症、眼精疲労等）

頸椎中部からくる疾患

正中神経痛、耳鼻科疾患（メニエール、耳鳴り、難聴、耳閉感、鼻水・鼻づまりなど）

頸椎下部からくる疾患

尺骨神経痛、顎関節症等

他に頸椎変形による症状として

副交感神経失調による自律神経症状、更年期障害に代表される様々な不定愁訴

頭痛、肩こり、慢性疲労、うつ、めまい、自律神経失調症、不眠症、突発性難聴、花粉症、各種アレルギー疾患、口内炎、五十肩、腕・ひじ・手先の痺れ、痛み、腱鞘炎といわれたがなかなかひかない痛み、その他炎症期を過ぎても痛む上半身の様々な痛み、痺れ、マヒなどとにかくあちこち痛いといわれる症状

5) 胸椎の変形・変位からくる様々な症状

背部痛、胸部痛、喘息、心臓神経症、帯状疱疹、無呼吸症候群、腰痛（T10～12の変形）、呼吸が浅いための新陳代謝不全、易疲労、不眠症、乳汁分泌不全

6) 腰椎・仙椎の変形・変位からくる様々な症状

腰痛、仙腸関節痛、ヘルニア、坐骨神経痛（含む・しびれ）、梨状筋症候群、股関節痛、脊椎分離症、すべり症、足の冷え、腹部膨満感、頻尿・乏尿、生理痛、月経困難症、不妊症、便秘

7) その他パルス治療&サーノス治療において有効な症状

変形性膝関節症、膝の水腫、内科系疾患（あくまでも医師連携が前提で）、精神病疾患、泌尿器科系疾患、産婦人科系疾患、捻挫、打撲、骨折等